

YUI NOS to NanoTerasu

～ #2 “分析室”からつながるナノテラス～

2025.6.24 [TUE]

15:00 ▶ 18:30

参加無料

事前申込制

アーバンネット仙台中央ビル

『YUI NOS』4F カンファレンス

宮城県仙台市青葉区中央4-4-19

現地参加 or オンライン参加

Timetable

- 15:00 主催者からのご挨拶
- 15:10 (一財)光科学イノベーションセンターからのご挨拶
- 15:20 民間企業の「NanoTerasu」活用による課題解決事例紹介
- 15:50 トークセッション
- 16:30 地域関係者の取り組み
- 17:10 分析室遠隔接続デモの見どころ紹介
- 17:30 分析室遠隔接続デモ体験・交流会
(現地参加のみ/軽食・ドリンク付き)

お申し込みフォーム・お問い合わせ

QRコードまたは下記URLより、お申込みください。
<https://yuinos-to-nanoterasu2.peatix.com>

- ※事前申し込みが必要です。
- ※現地参加の場合、定員になり次第締め切ります。

ご質問などございましたら、日本コンベンションサービス株式会社 東北支社
(tohoku@convention.co.jp)までお気軽にご連絡ください。



アーバンネット仙台中央ビル「YUI NOS」と3GeV高輝度放射光施設「NanoTerasu」の連携イベント第2弾『YUI NOS to NanoTerasu ～#2 “分析室”からつながるナノテラス～』を開催いたします。

今回は、「NanoTerasu」をはじめとする放射光施設を活用した「企業の課題解決事例」などについて、有識者によるトークセッションを予定しています。

また、「YUI NOS」内にある“分析室”の遠隔接続デモンストレーションを通して、実際に「NanoTerasu」の測定模様を体験することができます。

「NanoTerasu」の活用イメージが湧かない—そのような放射光研究に初めて触れる方から、「NanoTerasu」の活用をさらに深化させたい—といった既存ユーザーの方々まで、幅広くご参加いただける内容となっております。

モノづくり企業同士のネットワーキングや「NanoTerasu」関係者との交流をご希望される方も、ぜひお気軽にご参加ください。

分析室のデモンストレーションを通して、
「NanoTerasu」の測定実演も体験可能！



主催

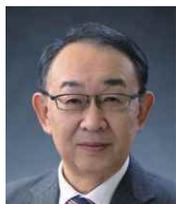
後援



登壇者紹介

2024年に運用開始された最先端の放射光施設「NanoTerasu」、その概要や今後の期待に関するお話に加え、民間企業3社による放射光活用事例の紹介とトークセッション、さらには東北大学・仙台市・宮城県などの「NanoTerasu」を支える地域関係者による取り組みを紹介します。企業における課題解決の道のりや支援の仕組みを知ること、放射光が“使える技術”として身近に感じられ、「NanoTerasu」活用による企業成長への可能性がぐっと広がります。

ご挨拶



一般財団法人 光科学イノベーションセンター
副理事長

新堀 雄一 様

地域関係者の取り組み



東北大学
研究推進部 ナノテラス共創推進課
特任教授

渡邊 真史 様



仙台市経済局
イノベーション推進部 産業集積推進課
課長

御供 真人 様



宮城県
経済商工観光部 技術副参事兼新産業振興課
総括技術補佐

長岩 功 様

民間企業の「NanoTerasu」活用による課題解決事例紹介・トークセッション



トヨタ自動車株式会社
電動化・環境材料技術部 材料基盤開発室
主幹

山重 寿夫 様



太子食品工業株式会社
執行役員開発本部 副本部長
技術開発部 部長

井戸川 詩織 様



株式会社メニコン
共創戦略部
部長

伊藤 恵利 様



進行

フリーアナウンサー
名久井 麻利 様

アーバンネット仙台中央ビル「YUI NOS」

東北エリア最大の都市、仙台。緑豊かな「杜の都」としても知られるこの街は、世界最先端の技術による3GeV高輝度放射光施設「NanoTerasu」始動などに伴い、様々な分野から注目を集めるイノベティブな国際都市へと進化を加速しています。

「アーバンネット仙台中央ビル」は、経済や交流の中心舞台となる仙台市都心部の機能強化、老朽建築物の建て替えなどの課題にNTTグループの資産の有効活用を通じて対応。2020年に仙台市と「都心部の活性化に関する連携協定」を締結し、『未来の仙台をつくる共創・賑わいの拠点に』をコンセプトに、市民や事業者の方々となつながり、街の新たな魅力やイノベーションを生み出す場づくりに取り組んでいます。



3GeV高輝度放射光施設「NanoTerasu」

「官民地域パートナーシップ(国の主体である国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構(QST)と、一般財団法人光科学イノベーションセンター(PhoSIC)を代表機関とする宮城県、仙台市、東北大学、東北経済連合会からなる地域パートナー)」という新しい仕組みで整備される施設。

太陽光の10億倍以上の明るさの光(放射光)を用いて、「ナノ」(1ナノは10億分の1メートル)の世界を観察することができる「巨大な顕微鏡」。「NanoTerasu(ナノテラス)」という愛称は、次世代放射光施設が研究や観察の対象としている、物質の「ナノの世界」を示し、さらに放射光がナノの世界を明るく照らして観察する強力な光であるという施設の特徴を表す。



(一財)光科学イノベーションセンター提供